タイムスケジュール

	2011年10月1日（土）	2011年10月2日（日）	
8:15	受付 （文学部新館2F 第3講義室前）	受付 （文学部新館2F 第3講義室前）	8:15
9:00	研究発表 （文学部新館 第1・第2・第4・第6・ 第7講義室）	研究発表 （文学部新館 第1・第2・第4・第6・ 第7講義室）	9:00
11:30		昼休み	11:30
12:00	昼休み		
12:30		研究発表 （文学部新館 第1・第2・第4・第5・ 第6・第7講義室）	12:30
13:00	総会 （芝蘭会館稲盛ホール）		
14:00	シンポジウム （芝蘭会館稲盛ホール）		
15:00		移動	15:00
15:10		コロキウム （文学部新館 第1・第2・第4・第6・ 第7講義室）	15:10
17:30			17:30
17:45	移動		
18:15	懇親会 （芝蘭会館山内ホール）		
20:30			

※このほかに、9月30日（金）には、理事会、機関誌編集委員会、書評委員会が予定されています。

教育史学会　第55回大会準備委員会　準備委員（50音順）

沖田行司（同志社大学）、越水雄二（同志社大学）、駒込武（京都大学）、小山静子（京都大学）、谷川穣（京都大学）、辻本雅史（京都大学）、西山伸（京都大学）、宮坂朋幸（びわこ学院大学）、山名淳（京都大学）

－ シンポジウム －

第55回大会のシンポジウムは、下記の要領で行います。なお、報告者のひとりを予定していたハインツ＝エルマー・テノルト教授はご病気により来日できないこととなりました。関係各位と協議の上、理事会の承認を得て、シンポジウムの報告者等を下記の通り変更し、趣旨説明文も若干修正いたしました。テーマ、日時、場所に変更はございません。以上の点についてご了解いただくとともに、多数のご参加をお待ち申し上げております。

テーマ:教育史研究における大学史研究の位置

日　時：2011年10月1日（土）14:00～17:45
場　所：京都大学医学部芝蘭会館　稲盛ホール

報　告　者	寺崎 昌男（立教学院）
	別府 昭郎（明治大学）
	西山 伸（京都大学）
指定討論者	児玉 善仁（帝京大学）
	羽田 貴史（東北大学）
司　会　者	新谷 恭明（九州大学）
	鈴木 晶子（京都大学）

《趣旨》

大学史研究は、中等教育史のような研究領域と並立する、教育史研究の一分野という性格をもつ。他方で、教育史という専門分野の成立と変容のプロセスは、それ自体として大学における学問史の一部分をなしてもいる。大学史が教育史の一部でもあり、教育史が大学史の一部でもあるという、合わせ鏡のような構造が存在しているともいえる。この構造は、教育史研究にどのような課題を投げかけているのか。教育史研究における大学史研究の位置はどのようなものであり、どのような立脚点から大学史を叙述すればよいのか。世界的にも大学が巨大な変動にさらされている今日であるからこそ、大学を大学たらしめると考えられてきた諸制度に即して、原理的かつ歴史的な検証を行うことが必要といえる。

大学を大学たらしめると考えられてきた諸制度として、学位制度や学部組織を挙げることができる。文・理・法・医といった学部の伝統的分類は中世ヨーロッパに起源する学問体系を基礎とするものであり、専門学のディシプリンが学部創設の前提とみなされてきた。ディシプリンとこれに基づく学問研究の「水準」への評価は、学位制度や講座制と相まって「学部自治」の基盤を提供するとともに、学問分野間の優劣、大学間の格差、大学の構成員間（正規・非正規教員、職員、学生）の序列を形作る要素ともなってきた。ただし、今日では「専門学の液状化」とも称されるように、ディシプリンという概念の存在根拠自体が危うくなってきてもいる。大学と国家との関係、大学における教える者と学ぶ者の関係は歴史的にどのような問題をはらんできたといえ

るのか。このような問いを立てることが、従来の教育史研究の視野をどのように拡張・再編していくことになるのかを含めて考えてみたい。さらに、大学沿革史の編纂体制や、大学史研究の内容を博物館における展示や講義室における授業を通じて共有していく手法をめぐる諸問題まで射程に入れながら、教育史研究上における課題を明確化していきたい。

＜報告者プロフィール＞

○ 寺崎 昌男（てらさき・まさお）

立教学院本部調査役、東京大学・桜美林大学名誉教授。教育学博士。『立教学院百年史』『立教学院百二十五年史』『東洋大学百年史』『誠之小学校百年史』『拓殖大学百年史』の執筆・編纂・顧問ならびに『東京大学百年史』の編集責任に当たる。著書には『日本における大学自治制度の成立』（評論社、1992年、増補版2000年）、『プロムナード東京大学史』（東京大学出版会、1992年）『大学自らの総合力』（東信堂、2010年）等の他、共著に『御雇教師ハウスクネヒトの研究』（竹中暉雄・樽松かほると共著、1991年）などがある。1993－94年、本学会代表理事。

○ 別府 昭郎（べっぷ・あきお）

明治大学文学部教授。博士（教育学）。著書に『ドイツにおける大学教授の誕生』（創文社、1998年）、『明治大学の誕生―創設の志と岸本辰雄―』（学文社、1998年）、編著に『「大学」再考―概念の受容と展開―』（知泉書館、2011年）共編著に『大学史をつくる―沿革史編纂必携―』（寺崎昌男・中野実と共編、東信堂、1999年）などがある。

○ 西山 伸（にしやま・しん）

京都大学大学文書館准教授。文学修士。『京都大学百年史』の編集実務に当たる。共編著に『田中秀央　近代西洋学の黎明―『憶い出の記』を中心に―』（菅原憲二・飯塚一幸と共編、京都大学学術出版会、2005年）、共著に『近代京都研究』（思文閣出版、2008年）、『知の伝達メディアの歴史研究―教育史像の再構築―』（思文閣出版、2010年）などがある。

＜指定討論者プロフィール＞

○ 児玉 善仁（こだま・よしひと）

帝京大学理工学部教授。博士（教育学）。著書に『イタリアの中世大学－その成立と変容－』（名古屋大学出版会、2007年）、共編著に『大学の指導法―学生の自己発見のために―』（別府昭郎・川島啓二と共編、東信堂、2004年）、訳書に『中世イタリアの大学生活』（平凡社、1990年）などがある。

○ 羽田 貴史（はた・たかし）

東北大高等教育開発推進センター教授。教育学修士。著書に『戦後大学改革』（玉川大学出版部、1999年）、共編著に『大学と社会』（安原義仁・大塚豊と共編、放送大学教育振興会、2008年）、分担執筆に『広島大学50年史（通史編）』（広島大学50年史編集委員会、2007年）などがある。

- 研 究 発 表 -

10月1日（土）　第1日　午前の部（9：00～12：00）

第1会場　第6講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　木村政伸（筑紫女学園大学）　梅村佳代（奈良教育大学・名誉）

〔1〕　9：00　「一文不通」の平安貴族
鈴木理恵（広島大学）

〔2〕　9：30　百姓自署からみた17世紀前半日本における識字状況の一事例
八鍬友広（新潟大学）

〔3〕　10：00　武蔵国増上寺領王禅寺村における識字状況
―寛政期・文化期村方騒動を通してみた―
大戸安弘（横浜国立大学）

〔4〕　10：30　『継声館日記』にみる郷学「継声館」の教育
―近世会津地方における在郷商人の学問と教育意識―
太田素子（和光大学）

〔5〕　11：00　近世中期における「孝子文化」の形成とその意義
―教化と文化の間―
VAN STEENPAAL NIELS（京都大学・院）

〈総合討論〉　11：30～12：00

第2会場　第7講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　逸見勝亮（北海道大学）　小股憲明（大阪芸術大学）

〔6〕　9：00　開拓使の札幌農学校開校（1876年）の意図
井上高聡（北海道大学）

〔7〕　9：30　対雁学校の歴史
―北海道に強制移住させられた樺太アイヌの教育史―
小川正人（北海道立アイヌ民族文化研究センター）

〔8〕　10：00　1886年から1898年までの北海道における私立初等教育機関の実態
坂本紀子（北海道教育大学）

〔9〕　10：30　1890年代の府県聯合学事会・地方部学事会議に関する研究
湯川嘉津美（上智大学）

〔10〕　11：00　近代日本の教育法令の体系と構造
米田俊彦（お茶の水女子大学）

〈総合討論〉　11：30～12：00

－研 究 発 表－　　（10月1日午前）

第3会場　第4講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　遠藤孝夫（岩手大学）　山内規嗣（広島大学）

〔11〕 9：00　18世紀ドイツにおける子育ての近代化
—ファウスト『衛生問答』に注目して—
藤井基貴（静岡大学）

〔12〕 9：30　1920年代ドイツにおける総合雑誌の教育論の位相
－Deutsche Rundschau の分析
清水禎文（東北大学）

〔13〕10：00　学校田園寮運動とヒトラー・ユーゲントの関係に関する研究
江頭智宏（鹿児島大学）

〔14〕10：30　戦後オーストリアにおける職業教育改革
—イシュール会議（1946年）に着目して—
田中達也（京都栄養医療専門学校）

〈総合討論〉　11：00～12：00

第5会場　第2講義室　（文学部新館　1階）

司会　：　井上惠美子（フェリス女学院大学）　友野清文（昭和女子大学）

〔15〕 9：00　日本女子大学校における「実践倫理」講義
—『日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述　実践倫理講話筆記』の検討から—
長野和子（日本女子大学・院）

〔16〕 9：30　日清戦争後中国における日本の女子教育情報
—呉汝綸による日本視察（1902）を通して—
董秋艶（九州大学・院）

〔17〕10：00　なぜ水兵の服が女学生の服になったのか？
—セーラー服を「結界」と考える試み—
岡本洋之（兵庫大学）

〔18〕10：30　看護職養成校の実態研究
—1930年代・職業と教育の接続の視点から—
仲島愛子（一橋大学・院）

〈総合討論〉　11：00～12：00

－研 究 発 表－　　（10月1日午前）

第6会場　第1講義室　（文学部新館　1階）

司会　：　木村元（一橋大学）　鳥居和代（金沢大学）

〔19〕 9：00　国民道徳論における井上哲次郎の課題
—明治三十年代の国語問題を手掛かりに—
瓜谷直樹（同志社大学・院）

〔20〕 9：30　沢柳政太郎における「実際的教育学」の含意について
—「学校」を基軸に据える教育学体系の再評価—
佐藤智実（慶應義塾大学・院）

〔21〕 10：00　富士川游と治療教育学
—教育病理学における“治療”と“教育”　の架橋—
前田晶子（鹿児島大学）

〔22〕 10：30　児童救済事業から児童保護事業への展開
—石井十次の家族・学校に関する思想と実践を通じて—
稲井智義（東京大学・院）（日本学術振興会特別研究員）

〔23〕 11：00　柳田國男のもつ前代教育観と近代教育観の差異
—著述に記された「教育」という語を手がかりに—
渡部恭子（慶應義塾大学・院）

〈総合討論〉　11：30～12：00

－研究発表－

10月2日（日）　第2日　午前の部（9：00～11：30）

第1会場　第6講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　荒井明夫（大東文化大学）　森川輝紀（福山市立大学）

〔24〕 9：00　明治14年政変と教育事務の転回

湯川文彦（東京大学・院）

〔25〕 9：30　「質朴堅牢」主義の系譜
—『文部省示論』「小学校ノ建築」の形成に関する一考察—

川口仁志（松山大学）

〔26〕10：00　雑誌『国民之教育』にみる道徳教育論争
—森文政期における『倫理書』編纂過程の再検討—

林子博（京都大学・院）

〔27〕10：30　明治期における直轄学校職員の欧州派遣

鄭賢珠（京都大学・非）

〈総合討論〉　11：00～11：30

第2会場　第7講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　吉川卓治（名古屋大学）　大島宏（東海大学）

〔28〕 9：00　務台理作の教育理念論の形成と展開

金井徹（修紅短期大学）

〔29〕 9：30　戦後教育行政改革に果たした小日向会の役割—広域行政圏構想を中心にして—

梅本大介（早稲田大学・院）

〔30〕10：00　「学力コンクール」の時代（1946-70）
—東京大学学生文化指導会をはじめとする学生団体が大学受験指導の一翼を担った頃—

三上敦史（愛知教育大学）

〔31〕10：30　日本における学校福祉行政施策の展開に関する歴史的研究（2）
—京都市教育委員会「生徒福祉課」の設立と学校福祉実践との関連をめぐって—

大崎広行（目白大学）

〈総合討論〉　11：00～11：30

－研 究 発 表－　　（10月2日午前）

第3会場　第4講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　野々村淑子（九州大学）　中村雅子（桜美林大学）

〔32〕 9：00　F. G.　ボンサーによる初等教育カリキュラムの開発過程
—インダストリアル・アーツの性格とプロジェクトの系譜—
遠座知恵（東京学芸大学）

〔33〕 9：30　ホーレスマン初等教育研究における市民性尺度の開発過程
—プロジェクト・メソッドのための教育測定法作成の実験—
佐藤隆之（早稲田大学）

〔34〕10：00　世紀転換期アメリカの子どもの発達観とデューイの成長概念
～初期デューイを中心に～
神藤佳奈（明治大学・院）

〈総合討論〉　10：30～11：30

第5会場　第2講義室　（文学部新館　1階）

司会　：　清水康幸（青山学院女子短期大学）　佐々木尚毅（群馬県立女子大学）

〔35〕 9：00　明治・大正期中等工業教育の模索と海軍工廠技手養成制度
～高等工業学校との分化過程に即して～
谷口雄治（職業能力開発総合大学校）

〔36〕 9：30　戦前昭和期鹿児島県における青年学校改革の特質に関する一考察
三羽光彦（芦屋大学）

〔37〕10：00　蝋山政道における国家と大学
—平賀粛学へのかかわりを中心に—
堀之内敏恵（お茶の水女子大学・院）

〔38〕10：30　文部省推薦図書『女教師の記録』（平野婦美子）推薦取り消しの経緯
岡崎沙織（奈良女子大学・院）

〈総合討論〉　11：00～11：30

－研 究 発 表－　　（10月2日午前）

第6会場　第1講義室　（文学部新館　1階）

司会　：　古川宣子（大東文化大学）　羽田貴史（東北大学）

〔39〕 9：00　植民地台湾における義務教育制度の施行

北村嘉恵（北海道大学）

〔40〕 9：30　占領期朝鮮人学校の教育費問題

―「国庫負担請願」の背景とその意味―

松下佳弘（京都大学・聴講生）

〔41〕10：00　戦後日本における朝鮮人教育と公教育制度

―公費支出構造の形成過程―

マキー智子（北海道大学・院）

〔42〕10：30　戦後夜間中学における在日朝鮮人女性の位置

―全国夜間中学校研究大会での議論に着目して―

山根実紀（京都大学・院）

〈総合討論〉　11：00～11：30

－研究発表－

10月2日（日）　第2日　午後の部（12：30～15：00）

第1会場　第6講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　千葉昌弘（北里大学）　川村肇（獨協大学）

〔43〕12：30　近世後期地方藩儒の経世と学問
—日出藩儒帆足万里を対象に—
渕上皓一朗（京都大学・院）

〔44〕13：00　明治初年代における地域の学事関係者
—維新期松本藩の藩政改革にみる中間層の動向—
塩原佳典（京都大学・院）

〔45〕13：30　明治前期における公立小学校の学校運営と地域利害
—福島県安積郡郡山小学校の事例を中心に—
鈴木敦史（同志社大学・非）

〔46〕14：00　1880年前後における大阪府教育博物館の教育事業
—教育情報の摂取と地域の教育要求に注目して—
髙田麻美（名古屋大学・院）

〈総合討論〉　14：30～15：00

第2会場　第7講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　菅原亮芳（高崎商科大学）　渡辺典子（武蔵野美術大学・非）

〔47〕12：30　近代日本における「煩悶青年」の再検討
和崎光太郎（京都大学・院）（京都市学校歴史博物館学芸員）

〔48〕13：00　戦間期における民間の「大学」の思想
—自由大学運動を中心に—
大谷俊（早稲田大学・院）

〔49〕13：30　文化学院の教養教育とモダニズム
—1920～30年代のリベラル・エデュケーション—
平沢信康（鹿屋体育大学）

〔50〕14：00　中日国交断絶期における唯一の日本語・日本文学教授
経志江（至学館大学）

〈総合討論〉　14：30～15：00

－研 究 発 表－　　（10月2日午後）

第3会場　第4講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　山﨑洋子（武庫川女子大学）　白水浩信（神戸大学）

〔51〕12：30　20世紀初頭イギリス　ロンドンにおける教育福祉制度に関する研究
—1906年から1914年子ども保護委員会の活動を中心に—
内山由理（首都大学東京・院）

〔52〕13：00　アイルランド公教育の成立をめぐって
—研究動向と今後の課題—
岩下誠（慶應義塾大学）

〔53〕13：30　18世紀後半におけるフランス公教育思想の展開
越水雄二（同志社大学）

〈総合討論〉　14：00～15：00

第4会場　第5講義室　（文学部新館　2階）

司会　：　山田恵吾（埼玉大学）　森透（福井大学）

〔54〕12：30　文部省編纂『小学校教師用 手工教科書』にみる教科書国定期の手工科の特異性とその歴史的意義
平舘善明（帯広畜産大学）

〔55〕13：00　東京市の公立小学校における学校園の展開
田中千賀子（武蔵野美術大学・院）

〔56〕13：30　山口県公立小学校における大正新教育運動の展開
—師範附属小学校･郡当局・県学務当局との関係性—
鈴木和正（広島大学・院）

〔57〕14：00　戦後カリキュラム改革と自治活動
—1950年代茨城県水海道小の実践を中心にして—
越川求（立教大学・院）

〈総合討論〉　14：30～15：00

－研 究 発 表－　　（10月2日午後）

第5会場　第2講義室　（文学部新館　1階）

司会　：　湯川嘉津美（上智大学）　高田文子（白梅学園大学）

〔58〕12：30　19世紀日本における玩具の変容とその教育機能に関する検討
～玩具に託された≪遊び文化≫や≪身体の教育≫に着目しながら～
藤田直人（法政大学）

〔59〕13：00　賀川豊彦の幼児教育思想における歴史的視座
加納史章（兵庫教育大学・研究生）

〔60〕13：30　師範学校の専門学校程度昇格に伴う保育者養成制度改革に関する一考察
小田義隆（近畿大学）

〔61〕14：00　戦後日本における保育施設の適正配置をめぐる施策
―東京都渋谷区公私立幼稚園調整審議会の検討を中心として―
松島のり子（お茶の水女子大学・院）

〈総合討論〉　14：30～15：00

第6会場　第1講義室　（文学部新館　1階）

司会　：　高橋陽一（武蔵野美術大学）　小野雅章（日本大学）

〔62〕12：30　近代日本の高等教育機関における「国学」と「神道」
藤田大誠（國學院大學）

〔63〕13：00　1930年代東京府における小学校児童の伊勢参宮旅行
―量的拡大とその要因―
橋本萌（お茶の水女子大学・院）

〔64〕13：30　1930年代の小学校訓育における「敬神崇祖」観念の導入
―鳥取県の教育界と神職会の動向に着目して―
高瀬幸恵（鶴川女子短期大学）

〔65〕14：00　台湾植民地支配と国体明徴運動
駒込武（京都大学）

〈総合討論〉　14：30～15：00

－ コロキウム －

10月2日（日）　15:10～17:30

コロキウム1　第1会場　第6講義室　（文学部新館　2階）

１９３０～４０年代日本における教育団体の変容と再編過程（３）
― 戦時期から戦後初期への変転 ―

オルガナイザー　梶山雅史（岐阜女子大学）

報　告　者　新谷恭明（九州大学）
1940年代前半における福岡県教育会『福岡県教育』掲載論攷の検討

佐藤幹男（仙台大学）
戦後初期における地方教育行政（機関）と職能向上

〈 設定趣旨 〉

戦前の教育団体の最終段階の実態、そして戦後教育発足の過渡期における教育団体の新たな組織論の登場と現実的展開、その歴史的経緯・歴史像の詳細について、前年度コロキウム企画に引き続いてさらに研究の深化・進展を図りたい。

○新谷報告

1940年代前半は日本が太平洋戦争に突入し、戦況が深刻になっていく時期である。
福岡県教育会機関誌『福岡県教育』執筆者の具体像解明、掲載論攷の傾向と内容分析を進め、論攷の時局に果たした意味、戦時教育情報の質を読み解く。

○佐藤報告

戦前において教育会が担った教師の職能向上は、戦後、誰が担うことになったか。
戦後占領期の教育政策や地方における教師の再教育事業の展開、教育行政機構の整備過程等を検討し、戦前の教育会の正負の遺産がどのように戦後に継承されていったのか、一つの視点を提示したい。

－ コロキウム －

10月2日（日）　15:10～17:30

コロキウム2　第2会場　第7講義室　（文学部新館　2階）

戦前期中等諸学校における『校友会雑誌』と「学校文化」の研究

オルガナイザー：斉藤利彦（学習院大学）　稲井智義（日本学術振興会特別研究員）
堤ひろゆき（東京大学・院）

報告者：斉藤利彦　市山雅美（湘南工科大学）　森田智幸（日本学術振興会特別研究員）
歌川光一（日本学術振興会特別研究員）　瀬川大（学習院大学・非）

〈設定趣旨〉

戦前期において多くの中等諸学校（中学校・高等女学校・実業学校）に「校友会」が結成され、その学内誌として『校友会雑誌』が刊行されていた。それらは、日常的な教育活動や、生徒たちが創りあげた「学校文化」の貴重な記録となっており、多様な角度からの分析が可能である。これら『校友会雑誌』は、その時代の当事者たちが、その時代に記した史料であるという点で、教育史研究における最も重要な一次史料であることはいうまでもない。にもかかわらず、これまでの研究の中で、これらの史料が系統的に収集され、分析されることはまれであった。報告者は、この数年来、旧制中学校および高等女学校を前身にもつ高等学校、それぞれ700校、1074校に対し『校友会雑誌』の刊行と所蔵に関する全国アンケート調査を行い、その分析の一部は、斉藤・市山「旧制中学校における『校友会雑誌』の研究」（『東京大学大学院教育学研究科紀要 第48巻』2009年3月）として発表してきた。また、各地の図書館における2000冊に及ぶ『校友会雑誌』の所蔵を確認し、さらに300種類、700冊以上の『校友会雑誌』を収集してきた。その中には、「外地」「外国」であった台湾、朝鮮、満州（新京・大連・奉天）、上海、青島、樺太、ハワイ等の日本人学校の『校友会雑誌』を含んでいる。本コロキウムでは、これらの史料をもとに、『校友会雑誌』のはたした役割を新たな視点からとらえなおし、その性格についての報告と意見交換を行おうとするものである。

－ コロキウム －

10月2日（日）　15:10～17:30

コロキウム3　第3会場　第4講義室　（文学部新館　2階）

近代日本におけるエリート教育の編成

―明治期と大正期との対話―

オルガナイザー　冨岡　勝　（近畿大学）
司会者　荒井　明夫（大東文化大学）
報告者　小宮山道夫（広島大学）
指定討論者　吉川　卓治（名古屋大学）
小針　誠　（同志社女子大学）

設定趣旨

「一八八〇年代教育史研究会」では、2005年の教育史学会第49回大会（東北大学）において「一八八〇年代日本教育史の再検討にむけて――高等中学校は何故、どのようにできたのか」と題したコロキウムを開催し、一八八〇年代の教育史を改めて検討する必要性を、高等中学校成立事情の考察を中心に提起した。今回はこれを発展させ、「一八八〇年代における高等普通教育と専門教育の再編」に関する本研究会の近年の取り組みを報告するとともに、大正期に関する研究者との対話を試みる。

『公立大学の誕生―近代日本の大学と地域―』（名古屋大学出版、2010年）を通じて大正期の地域と高等教育との関係を論じた吉川卓治氏と、
『“お受験”の社会史―都市新中間層と私立小学校』（世織書房、2009年）で大正期の私立学校進学ブームを分析した小針誠氏を指定討論者として迎え、地域と高等教育との関係や、帝国大学を頂点とした学校体系の確立などの論点を中心に、一八八〇年代のエリート教育の編成について率直な意見交換を行いたい。参加者からの活発な発言を期待する。

－ コロキウム －

10月2日（日）　15:10～17:30

コロキウム4　第5会場　第2講義室　（文学部新館　1階）

「近代教育」のなかの古典と道徳－地域間比較の試み－

オルガナイザー　宮澤康人（東京大学・名誉教授）
森岡伸枝（大阪芸術大学短期大学部・講師）
長谷部圭彦（日本学術振興会・特別研究員）

報告者　宮原佳昭（南山大学・講師）
「中国近代の学校教育における「読経」問題」
磯貝真澄（京都外国語大学・非常勤講師）
「ロシア帝政末期ムスリム知識人の「新方式」教育における道徳」
岡本託（神戸大学・研究員）
「近代フランス上級行政官試験における人文古典知識の受容と変容」

設定趣旨

本コロキウムでは、一般に「近代教育」と見なされているものが、いかにして世界規模で形成されたのか、その過程を構造的かつ動態的に把握する糸口として、19世紀から20世紀前半のユーラシアにおける「教育」を、比較史的に検討する。

比較史において求められるのは、世界史的な視座からの地域の選定と、新たな論点の抽出が見込まれるような比較軸の設定である。そこで本コロキウムでは、「教育」と密接な関係にある宗教と文字に基づいて、ユーラシア大陸を大きく三つに分類し、それぞれの代表的な事例を検討する。すなわち、儒教と仏教が広く浸透し、漢字とそれから派生した文字が創出された「東アジア世界」の代表として、清末から民国初期の中国、イスラームが価値の根幹を形成し、様々な言語がアラビア文字で表記された「西・中央アジア世界」の例として、世紀転換期のロシア帝国治下のムスリム（イスラーム教徒）、そしてキリスト教に基づく世界観が構築され、ラテン文字が広く行き渡った「ヨーロッパ世界」の事例として19世紀のフランスを取りあげ、ユーラシア全体を可能な限り視野に収める。他方、比較軸としては、それまでの「教育」との連続性に配慮するために、とくに古典や道徳に注目する。なお、ヒンドゥー教と仏教、そして梵字を特徴とする「南・東南アジア世界」については、今後の課題としたい。各報告に続いて、日本教育史研究からのコメントを受け、より広い見通しをもった議論に繋げていきたいと考えている。

－ コロキウム －

10月2日（日）　15:10～17:30

コロキウム5　第6会場　第1講義室　（文学部新館　1階）

男女別学から男女共学へ――セクシュアリティと男女交際――

オルガナイザー　小山　静子（京都大学）
報告者　前川　直哉（京都大学・院）
今田絵里香（京都大学）
小山　静子（京都大学）
指定討論者　小玉　亮子（お茶の水女子大学）

〈設定趣旨〉

中等教育機関に通う男子生徒と女子生徒は、思春期のまっただ中を生きているにも関わらず、彼ら・彼女らのセクシュアリティの問題は、これまでの教育史研究において等閑に付されてきたといってもよいだろう。〈性〉が隠された学校空間において、彼ら・彼女らはどのような性的存在であることが求められていたのだろうか。本コロキウムでは、この問題を、中等教育における男女別学から男女共学への転換と絡めながら考察してみたいと思う。そのことを通して、セクシュアリティの視点から見た男女別学や男女共学という問題や、中等教育機関の生徒たちのセクシュアリティのありようについてコロキウム参加者と意見交換を行いたい。

〈報告概要〉

(1)前川直哉「学生男色と女学生の登場」

明治期に流行した学生男色(学生同士の男色)とその背景について考察し、1900年代の女学生の登場を機に学生男色のイメージがどのように変容したのか、また男子学生をとりまく性の環境がどのように変容したのかを考える。

(2)今田絵里香「男女共学と少女雑誌における異性愛表象」

戦後、男女共学が実施されることによって、メディアにおける男女交際イメージは大きな変容を迫られるようになった。本報告では、少女雑誌が異性愛をどのように扱い、女子生徒をどのような性的存在として表象するようになったのか、男女共学実施との関連から考察する。

(3)小山静子「男女共学と純潔教育の登場」

文部省は、戦後すぐから純潔教育に取り組みはじめるが、それはどのような社会的文脈において行われたのか。男女共学の実施と関連づけながら、純潔教育の登場を考える。